

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)

分担研究報告書

脊椎関節炎の疫学調査・診断基準作成と診断ガイドライン策定を

目指した大規模多施設研究

研究代表者：国立大学法人大阪大学大学院医学系研究科

運動器バイオマテリアル学寄附講座准教授 富田哲也

研究分担者：順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院内科 教授 小林茂人

研究協力者：井上久（順天堂大学医学部整形外科）

多田久里守（順天堂大学膠原病内科）

研究要旨

本邦における脊椎関節炎の問題点・課題を検討した。特に強直性脊椎炎は国内外で診断が難しい疾患であるが、日本では、希な疾患のため、基本的概念を正しく理解されないこと、Assessment of SpondyloArthritis international Society (ASAS) の分類基準を診断基準として誤用して使用するため、過剰診断や不適切な治療が行われること報告された。

A 研究目的

本邦における脊椎関節炎の問題点・課題を検討した。

B 研究方法

順天堂医院と順天堂越谷病院の整形外科医 1 名、内科医 3 名の臨床現場での経験、臨床検討会（症例検討会、勉強会）や日本 AS 友の会の医療相談などからの問題点を選択した。

C 研究結果

問題の事例を箇条に記載すると、

- ・もっとたくさんの SpA がいる。自分はリウマチと同じぐらいの患者を診ている。
- ・日本では一般人口の HLA-B27 陽性率が少ないから、日本の AS は HLA-B27 陽性者は少ない。

・線維筋痛症か SpA が解らないときには、BIO を投与して効果が無ければ、線維筋痛症である。

・患者や家族にきちんとした話がなされていない。セコンドオピニオンにて来院すると、過剰診断・誤診が非常に多い。

・uSpA + FM との診断名で紹介されてくるが、実際は FM のみの症例が非常に多い。

・適切な診断であっても、説明不足、説明が不適切である。このため、患者や家族が、余計な不安を抱き、心理的に症状を悪化させているケースが多い。

・再び、診断することが必要なことが多い。診断や治療法を変えるため、多大な労力が必要で医療費と時間の無駄である。

D 考案

ASAS 基準(2009 年)が提唱されてから、今

回あげた問題点が多くなった。国内だけではなく、外国においても混乱があることが理解された。本研究班が中心になって、日本脊椎関節炎学会、日本リウマチ学会、日本整形外科学会、その他の関連学会と連携して、脊椎関節炎の正しい臨床概念と適確な患者・家族への対応、正しい治療などの推進をすることが重要である。

E 結論

強直性脊椎炎に関して、慎重に診断し、患者に対して適確なアドバイスのもとに治療を行うことが重要である。

F 健康危険情報

なし

G 研究発表

論文

1. Tada K, Kobayashi S, Ogasawara M, Inoue H, Yamaji K, Tamura N. Non-radiographic axial spondyloarthritis with sacroiliitis detected by tomosynthesis. *Arthritis Rheumatol.* 2017 Apr 4. doi: 10.1002/art.40113.
2. Kobayashi S, Yoshinari T. A multicenter, open-label, long-term study of three-year infliximab administration in Japanese patients with ankylosing spondylitis. *Mod Rheumatol.* 2017 Jan;27(1):142-

149. doi:

10.1080/14397595.2016.1176635.

3. Harabuchi Y, Kishibe K, Tateyama K, Morita Y, Yoshida N, Kunimoto Y, Matsui T, Sakaguchi H, Okada M, Watanabe T, Inagaki A, Kobayashi S, Iino Y, Murakami S, Takahashi H, Tono T. Clinical features and treatment outcomes of otitis media with antineutrophil cytoplasmic antibody (ANCA)-associated vasculitis (OMAAV): A retrospective analysis of 235 patients from a nationwide survey in Japan. *Mod Rheumatol.* 2017 Jan;27(1):87-94. doi: 10.1080/14397595.2016.1177926. Epub 2016 May 11.